北海道と沖縄県そして茨城県

石狩医師会
石狩病院
津田（つだ）　守弘（もりひろ）

“2024年度”の休暇を2025年３月下旬に取得しました。

例年、この時期に、遅い“夏期休暇”を取得し、生まれ故郷である茨城県に赴き、実家での業務を行うことが通例となっていましたが、今回は、妻と旅行することになりました。

沖縄県は、以前に学会で訪れたことがありましたが、その際には、所定の単位の取得を含め、日中は学会に参加しておりました。

観光で沖縄県を訪れるのは、初めてでした。

毎年のように大きな話題を呼んでいる「都道府県魅力度ランキング」ですが、“都道府県魅力度ランキング2024”によれば、最も魅力度が高かったのは北海道で、３位は沖縄県であったようです。私の生まれ故郷である茨城県は45位でした。ちなみに、茨城県は前年には47位と最下位であったと知りました。生まれ故郷である茨城県に現在も居を構え、定期的に往復し、なおかつ、強い愛着を持っている筆者には、受け入れ難い“ランキング”であると、常々感じております。

「都道府県魅力度ランキング」の是非はさておき、今回は、北海道と沖縄県という魅力度の高いとされている地域を往復することになりました。

北海道の観光を計画する際に、関東地方出身の人間に、“ありがち”なことですが、「函館も、札幌も、小樽も、富良野も、襟裳岬も、知床にも行きたい」、「できれば３泊４日で」という実現することが困難な願望を語る方がおられます。沖縄県を観光する上での適切な旅程について検討し、旅行代理店の方にお尋ねしたところ、“島に行くか”、“アウトドアスポーツに取り組むか”、などによって、変わってくるとの返答でした。アウトドアスポーツに取り組む予定はなく、沖縄本島で、ゆったりと過ごしたいと考え、４泊５日としました。

新千歳空港を出発し、伊丹（大阪国際）空港で乗り継ぎ、那覇空港に到着しました。

那覇市内の国際通りから少し離れたホテルに宿泊し、夕食は国際通りの沖縄料理店に行きました。

以前に訪れたことがあり、現在再建中の首里城の訪問は、見合わせました。

翌日は、前回短時間しか過ごせなかった沖縄美ら海水族館に向かい、午前から夕方まで過ごしました。さらに、４日目にはDMMかりゆし水族館に入館しました。那覇市内には、ステーキハウスがたくさんあり、滞在期間中に２つの店を訪れましたが、地元の方や観光客でにぎわっていました。

３月下旬の沖縄県は、曇りがちで、ときおり小雨を伴う気候でしたが、幸い雨が降り続くことはなく、国際通りやアウトレットを訪れ、海を眺めたりしながら、のんびり過ごすことができました。

帰りは、那覇空港を出発し、羽田空港で乗り継ぎ、新千歳空港に降り立ち、帰宅しましたが、北海道内はとても寒く、翌日には雪が降り、あらためて気候の違いを認識いたしました。

北海道と沖縄県という魅力度の高い地域を往復いたしましたが、どちらが観光地として魅力的であるかなどという野暮なことは申しません。その一方で、医療に関して申し上げるならば、私は、常々、北海道を含めた降雪量の多い地域の医療従事者は、冬季は雪による影響を大きく被っていると感じておりました。もちろん、ウインタースポーツを趣味としている方々にとっては、冬季は楽しい季節であると思います。私は、ほとんど雪が降らない茨城県で生まれ育ちました。茨城県で過ごした小学生時代に、“雪が降った”という理由に基づき、短縮授業となり、午前の授業が終了した後、昼過ぎから集団下校したことを鮮明に記憶しております。決して、大雪というわけではありませんでした。当時の私は、“雪国は、冬季はずっと休校なのであろうか？”などと、考えたものでした。

中学生・高校生の頃には、たまに雪が降ると、うれしくなり、はしゃいでおりました。降雪量が少ない地域において、“ホワイトクリスマス”という言葉の響きに浮かれまくっていました。

北海道において医療に従事するようになり、雄大な自然に感動を覚えるとともに、冬季は雪におびえております。

降雪量が少なければ、医療に関してさらに高いパフォーマンスを発揮できるのではないかと感じるのは、私だけでしょうか？

沖縄美ら海水族館にて